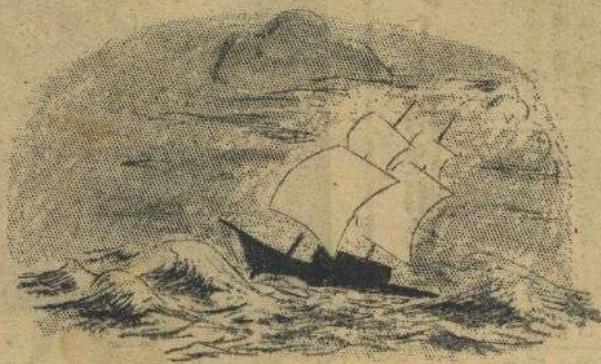


キヤンブは樂し



One Ship Drives East

R. R. Williams

One ship drives east, another drives west
While the selfsame breezes blow;
'Tis the set of the sail and not the gale
That bids them where to go.

Like the winds of the sea are the ways
of fate
As we journey along through life;
Tis the set of the soil that decides the goal
And not the calm or the strife.

は当然でそれが第1回のところである。しかし我々は多く立派な本校の生徒ではない。立派にあつてはなく、立派のものではない。立派の立場にあるから、その根本的な面に専門協力する事は出来ない。しかし新聞を発行することによって、父兄と学校の実績を精神的外的の方面からうなづく、知らせる事が出来れば、父兄と学校との連絡の如き廢除をより容易ならしめる重要な手段となるのである。

又本校に本校生徒との関係を説く時は、日々の争いがつた事苦しつかずの争いがて本校の学生生活の向上を計る、一年級となること一年生のものであるべき事なのである。

「いざ吾君たのもの
長先生がひっくりさ
のてある。吾君たのもの
はつまむ。思ひがけ
い反応に、半ばのぼ
うつたのだろう。そ
らどんな症候があつ
はつきりと思ひ出せ
何でも良心がありま
?と聞かれて、両面を
り渡す。トシシムカの
返答もしたので記憶
しているだけだ。

が根深充満相たるに恥じ
ないオーラクリスト振り
を發揮せばされるかは
天稟(てんぼう)につべかず。
に今年始めて参加する一
耳生語君には、あけて樂
しき玉手箱、みんなふる
つて参加しよっ、因に、
根深とほめの別名、恐い
は勁がないんだもうであ
ります。

夏祭緣起

学情動の解決策であると共に、楽しむ五十空を旅行。大空躍と満喰べき秘境のスプリング、ホートン。今年の夏祭も今や回憶に迫つたが、以下少し詳しくその経験について記してみようと思ふ。

祭りは神輿がつづきもので、ねじり鉢巻に、振りの法被をまとめて、ワッショイ〜〜と走り歩くのが常識になつてゐるが、専元の夏祭はさうかでなく、なんどンチヤン騒ぎとよきと異にして、必ずしも神輿を司る體装をしぼつた等の特徴がある。この儀式会であり、機智の百貨店である。

閑居帳へちやんがついた先生方を、どうした

く略の黒古が表あつた。昭和二十一
年一回の会津重ね
三回、此の田舎
尺さかづつア師の
すとじう東洋流
を悉く一擲して
珍妙が溢れ出
先生方も見るもの
見て奇異に驚じ
「こなは」正義
チヨコを配給して
度用を取られたう
い出の中に、樂
て居る中で、樂
り居るもまでて
リ休もまでて
「特急車廻しと
化」の激動に時代
コールを経つせ
きお駅迎さんに
リ、操作してしま
前に紹介するもや
今年に集して、

がを求む 新聞部

よ。人向
はい」と
のさじ
寝められ
噛つた。
た。抑えんとしても何ん感
ひに出てこまし。併し
はが苦であるうか? 且
は苦なら、歿死しなが
た人は苦不苦でなくては
ならない。辛じて露命を
つなくに延るだけの箇
番舊つて生きて来た人々
は余り奇詰さま。蓋
のはつましに無事が
しないなあ——自分の幼年
な苗では、この創刃がな
い向處と取組んで見ても
もとより明確な答の出る
はずもなかつた。

はりにしほづれた御室の
大猿猿もやる夏祭は、何
といつても榮光きつての
痛快な年中行事である。
それは一学期百角本日劔

つ轟いたじのあことが
出来るが、能くばれ
然回失さける程の秀才を
案出して、天晴れ口頭の
仇討ゑしようと肝膽を碎

るか、此が出来るか？」
和氣な審観に應みあい
更に伸びるべき場を貯
るよすがとなる要領で
栄光の比美なき精業

今年は、これを行われ
ぬかも知れぬという。今
耳こそは、一と腕によりて
かけていた人々も相当い
ある。

神の發見

本村千頃

は簡米に靈命をつないで
いる現実を考えると、里